

# ワークショップ

座長： 笈 善行 (香川大学)

## Ⅰ 転移を有する前立腺癌フレイル症例に対する漢方薬の効果 — 全身状態、排尿状態ならびに生活満足度を評価として —

独立行政法人 国立病院機構 神戸医療センター 泌尿器科<sup>1)</sup>  
センプククリニック<sup>2)</sup>

大岡 均至<sup>1)</sup>、千福 貞博<sup>2)</sup>

### 【目的】

転移を有する前立腺癌フレイル症例に対する補中益気湯の効果につき検討する。

### 【対象と方法】

同意を得たM1前立腺癌で、PSA・転移病巣の進行がなく(CR)、フレイルの基準を満たす194症例。これらの内134症例に対しては、補中益気湯(以後TJ41)単独2.5g×2食前を、まず4週間投与して効果・有害事象を確認、以後18か月継続後、以下の項目につき検討した(A群)。残る60症例に対してはTJ41は無投与・経過観察とした(B群)。1)体重減少、2)易疲労感を感じる日数、3)握力、4)歩行速度、5)活動性VAS(0;全く問題なし、10;最も悪い)、6)IPSS、7)IPSS-QOL、8)Qmax、9)PVR、10)overall Patient-reported outcome VAS(PRO: 0;全く問題なし、10;最も悪い)。

### 【結果】

A群では、生活満足度の指標PROにて129症例(96.2%)が有効と判断された。また、処方前と18カ月後とでの評価項目の変化は、1) -1.3kg→+1.0kg、2) 6.0→2.6/週、3) 19.1→24.5kg、4) 44.5→55.1m/分、5) 8.7→4.4、6) 14.5→7.6、7) 5.1→2.4、8) 8.2→12.4ml/sec.、9) 99.6→28.1ml、10) 8.6→3.9と全項目において、有意な改善が認められた(p<0.001)。

一方、B群では経時的に10項目はすべての項目で悪化傾向を示し、加えてA群との評価項目の変化率に関して、すべての項目で統計学的有意差を認めた。すなわち、CRのM1前立腺癌であっても通常の内分泌療法治療経過中にフレイル尺度や排尿状態は増悪し、TJ41の内服はこれらを改善させることが判明した。

### 【考察】

和漢診療では、フレイルを『気虚』・『腎虚』・『脾胃虚』・『寒証』・『枯燥』と考える。この病態に加えて担癌を伴う症例に対し、TJ41は身体機能低下、すなわち、フレイル尺度の改善のみならず、排尿状態の改善も認めた。TJ41の総合的な治療効果が生活満足度(=PRO)の改善をも達成したと考える。

### 【結語】

転移を有する前立腺癌フレイル症例に対し、TJ41は患者満足度を高める有用な治療法である。